

秋の日に

十月二十一日の国際反戦デーの日、東京の一部では戒厳令が発令されるほどの騒乱が持ちあがり、千人の逮捕者がでたと報ぜられて

れないと言ったようなこと。自分の土地へ自分の意志で自由にものが作れなくなる、そんな時代がきたとしたらどうだろう。農民よどこえゆく——余り過ぎた米をこれ以上余るほど作らないために、何をどうしたらよいか、いまや農民は大きな転換の危機に直面している



みなさんの声、意見をお寄せください。
 〓六百字以内〓

秋祭りの大鼓の音が平和そうなひびきを伝えて

現在の私達には以前のように真の平和と安息のひびきとしてすなおに聞くことはできなくなった。

米の問題だけを取りあげても、米価の据え置き、一律に一〇パーセント減反しなければ食糧法は守

み、対処しなければならぬと私は考える。

現在の単協の在り方は単に銀行屋と保険屋とが関係しているような状態で、貯金がいくらになつたとい

いそがしい毎日の生活の中にあって、ややもするとお互いに大切な人間関係を忘れがちになりやすい現在です。子供からお年寄りまで、もっと小さな親切に目をむける必要があると思います。

「小さな親切」

運動をおこそう

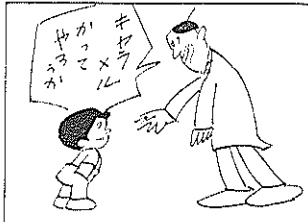
の人の口からでる世の中にしたもので、広報では、どんなことでも結構ですから、小さな親切をとりあげ、明るい南園市を育てて行く、企画をしていきます。

結婚式を

考えよう

三十三秒ごとに、一組の新しいカップルが誕生しています。厚生省の統計によると、年間九十五万組以上の新婚夫婦がスタートするといわれています。

結婚式に、すぎたるものが二つあります。一つは、花嫁の色直しという風習、もう一つは、来客に出す引き出物。自宅で行われる結婚式ならともかく、式場を利用する場合は、所要する時間は、三時間以内が、普通であり、そのうち祝辞や色直しに、一時間以上も、かかることが多くあります。色直しのため、花嫁のいなくなった式場ぐらゐ、間がぬけたものはありま



郵便物には 郵便番号を

住所の 一 忘 記 番号も お 便番は 住所の 番号も 郵便番号を 宛先を 宛先を

せん。かたぐるしい衣裳では、花嫁が可愛相だと、いわれる人もあるかも知れませんが、長い人生の苦勞を思えば、三時間位の辛棒はがまんすべきであり、来客に対しても、花嫁が座をはずさないことが、最大のサービスであると思えます。色直しの風習は考えてみるべきではないでしょうか。

次に引出物は、贈るものにとつて、頭痛の種であり、もらうものにとつても、またこんなものがといつたものが多くあります。なか工夫ができないものでしょうか例えば、二人の楽しそうな写真をもらった方が記念となり、気がきいていきます。それに宝くじか、はがきでもそえたらもって帰るのに荷物にならなくてよいと思えます。(湖 鯉)